

O unico encontro na vida

～一期一会の思いを込めて～

No.2 2017.10.10

パラナ州都であるクリチバ市（標高およそ 940m）から約 400 km離れたマリンガ市（パラナ州で住みたい街、第1位に選定）まで、バスに揺られて約 10 時間、腰も背中もちこちこです。

マリンガ市教育局へ挨拶に出向いたところ、バリキリア教育局長とも面談することができました。バリキリア氏は、学校教育に「掃除活動」を取り入れたい考えをもち、日本の学校教育に関心を抱いていました。教育談議が進む中で、翌日のCMA I（幼児教育）開校式に招待をされました。



【写真左から、教育局長、マリンガ市長、マリオ、マリンガ市副市長】

日本と母国の言葉や文化の壁 両者を尊重することで道は開く

マリンガ日本語学校で、日本からの帰国者 6 名と面談をしました。面談内容（一部抜粋）は下表のとおりです。帰国当初は、言葉や文化のちがいによる戸惑いが大きいようです。

氏名	年齢	日本での滞在	家族	帰国時に感じたこと ●困った ○よかった	日本語学校との関わり	備考
伊木	20 男	日本生まれ ～5歳まで滞在	父母 :ブラジル人	●言葉が通じない。 ●文化の違い。 (規律順守、そじ、人を敬う心、など) ○家族や親感が多くいる。	・帰伯時、学校文化や社会生活の違いに戸惑った。 ・日本語学校での学びに救われた。 ・14歳まで日本語学校に通う。	・13～14歳にブラジルに帰った子は、ブラジル生活に不便さを感じると思う。 *日本の利便性を知っているため
三都主	12 男	日本生まれ(埼玉) ～8歳まで滞在	父:ブラジル人 母:日本人 妹:9歳、3歳 弟:6歳	○日本人はちゃんとしている。 ・そじ ・授業 ・バランスのよい給食	・日本語や日本文化を忘れないため。 ・祖父母と日本語で話したい。	・転居が多かった。 埼玉→名古屋→宇都宮→岐阜 ・帰伯前に、大垣市のブラジル学校に通い、学研等で日本語を学んだ。
佐藤	13 女	日本生まれ (岡崎、六ッ美) ～9歳まで滞在	父:ブラジル人 母:日本人 *一人っ子	●言葉の使い方や書き方に戸惑った。 ●学校文化の違い*ブラジルは… ・図工は絵を描くだけ ・体験的な学習がない	・両親の意向で通っている。	・帰伯前に、ポ語を習った。 ・4年ではなく、2年に所属。 ・午前は市立学校へ、午後は日本語学校、公文、陸上に通う。
生田	25 男	日本生まれ ～6歳まで滞在	父母 :ブラジル人 妹:23歳	●文化の違いや言葉の壁を痛感した。 ・規律 ・授業中の生徒の態度		・15才で両国のよさを見つめられるようになった。 *文化を理解する大切さを実感 ・日伯ハーフという考えではなく、両者を尊重する大切さに気づかされた。

■■ 小中学生のみなさん！今回の出題は3問です。



Q3 区間内定額のバス
乗車料金はいくら？
※1リアル=35円で計算



Q4 マリンガ市民が住むアパートです。日本のアパートと比較すると、外観に相違があります。どこにちがいがあるのでしょうか？

◆ヒント:毎日の日常生活

<通信No.2の答えは次号で>